

2008/9/11(木) 午後 6:59

無題

練習用



0





写真: 上より、抜けるような青空と教会、会場「アレキサンダー」、面会スタート、面会の様子。

フランクルのお墓参りを終え、列車、バスと乗り継ぎ、ウィーン校外にある街、『ペルヒトルズドルフ』へ。とっても可愛い店が並んでいる街。

ルーカス先生とお会いする約束の時間まで、昼食・休憩となりました。

今朝、ホテルでの朝食時に、昼食を持っていった方が良いかも・・・という情報がどこからか入って、朝食時出たパンやハムやチーズを使って、オリジナルサンドウィッチを作り、持ってきて良かった！日本人はこんな時、ちょっとこそそしちやいますが、向こうでは良くあることなのでしょうか？さわやかな青空の下、パンやリンゴなど頬張る私達でした。

昼食時間を利用して、近くの教会に入り、心を落ち着け、ルーカス先生との面談に備えました。ここの教会(名前をリサーチしそびれました・・・)は、『ロマネスク様式』で、今でも残っている建築物としては珍しいものなそうです。

さて、14:30 いよいよルーカス先生と面談の時間です。ルーカス先生は、赤の似合う素敵な方。この日の洋服の赤と、日本からのおみやげとして送られた、輪島塗の合鹿碗の朱色とが重なって見えました。

(この時、K先生は、皆がそろそろ前に、ルーカス先生と直接ドイツ語でお話になり、握手ができた、と後日うれしそうに話しておられました。)

ドリンクとケーキを注文し、さっそく質疑応答の時間が始まりました。

お土産担当だった牧野さんと合鹿碗、そして、その器を作った職人の方との出会いについては、数日前にT.M.さんが説明してくださっています。

この素晴らしい出会いについても、T.M.さんからルーカス先生に説明がありました。

K.K.先生のメールにもあるように、ルーカス先生は、「この器の中に今日の思い出がいっぱいつまっている」とおっしゃておられました。また、漆器と伝統工芸もロゴセラピーも『継続』という大切なことが共通していると、どなたの言葉だったか忘れましたが、お話がありました。(S.A.記)

印象に残っているのは、どこまで間でも澄み渡る青空、『ペアヒトルズトルフ』の落ち着いた佇まい、面会を前にしての皆さんの(私だけじゃないですよね!?) 緊張と興奮、そして何より、ルーカス先生の溢れんばかりの魅力でした。

ルーカス先生は、まさにロゴセラピーを生きていらっしゃると思います。ドイツ語が何一つわからない私にも(だからこそ?)、先生のロゴセラピーへの想いや情熱が痛いほど伝わってきました。そして、厳しさも。真剣に生きるとは、態度で示すとはまさにこういうことなんだと、稲妻に打たれたような衝撃でした。

ルーカス先生の表情は、場面場面で本当によく変化します。(写真をご参考に)それは、その一瞬一瞬の意味を考え、その瞬間でのベストを尽くしていらっしゃるからなのかなあ～と感じました。正直、ロゴセラピーの専門的な部分は、私はまだ実感としてピンと来る部分がそう多くはありません。けれども、今回ルーカス先生にお目にかかり、難しいことはさておき、「とにかくロゴセラピーはすごい！」「このような意味を大切にした生き方をしていきたい！」と、強く思いました。(N.M.記)